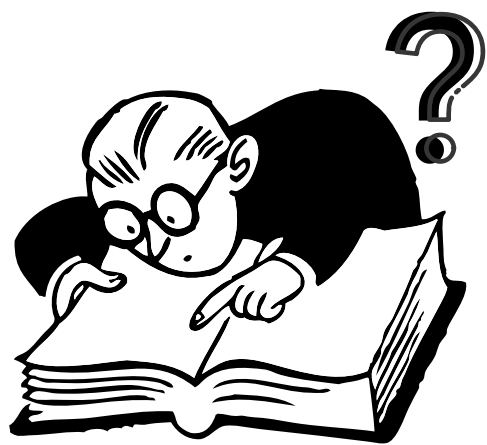


三ライの司書会 活動報告書

スムーズな情報アクセスのために
～わかりやすい書架サイン考案～

活動目的



利用者が情報にアクセスするために、図書館はどんな案内をすればいいのか考える。

対象の想定

とても使いにくい図書館と、そこで困っている利用者を想定してみる。



解決案と今後できること



実際に書架サインを考案してみる。
さらに、今後やっていきたい改善策を考える。

活動目的

- ・ 広い図書館で膨大にある資料から、自分の目的の資料を探し出すときに、利用者はopac検索をした後、書架サインを頼りに資料がある場所を探す。正確な記号を振ってあることはもちろん必須であるが、いくら正確な番号を振ってあったとしても、デザインが目にとまりやすく、明確で混乱を招かないものなければ、案内としての役割を果たさない。
- ・ 情報へのアクセスをより早くするために、わかりやすい案内が必要不可欠である。わかりやすい案内とは、図書館の建物や利用者入りやすい入り口のデザインから、手続きを簡単でわかりやすくすること、図書館員に声をかけやすい雰囲気を作ることまで、様々であるが、今回私たちは、大学図書館を想定して、わかりやすい書架サインを作ることにした。

対象の想定

【想定する利用者像】

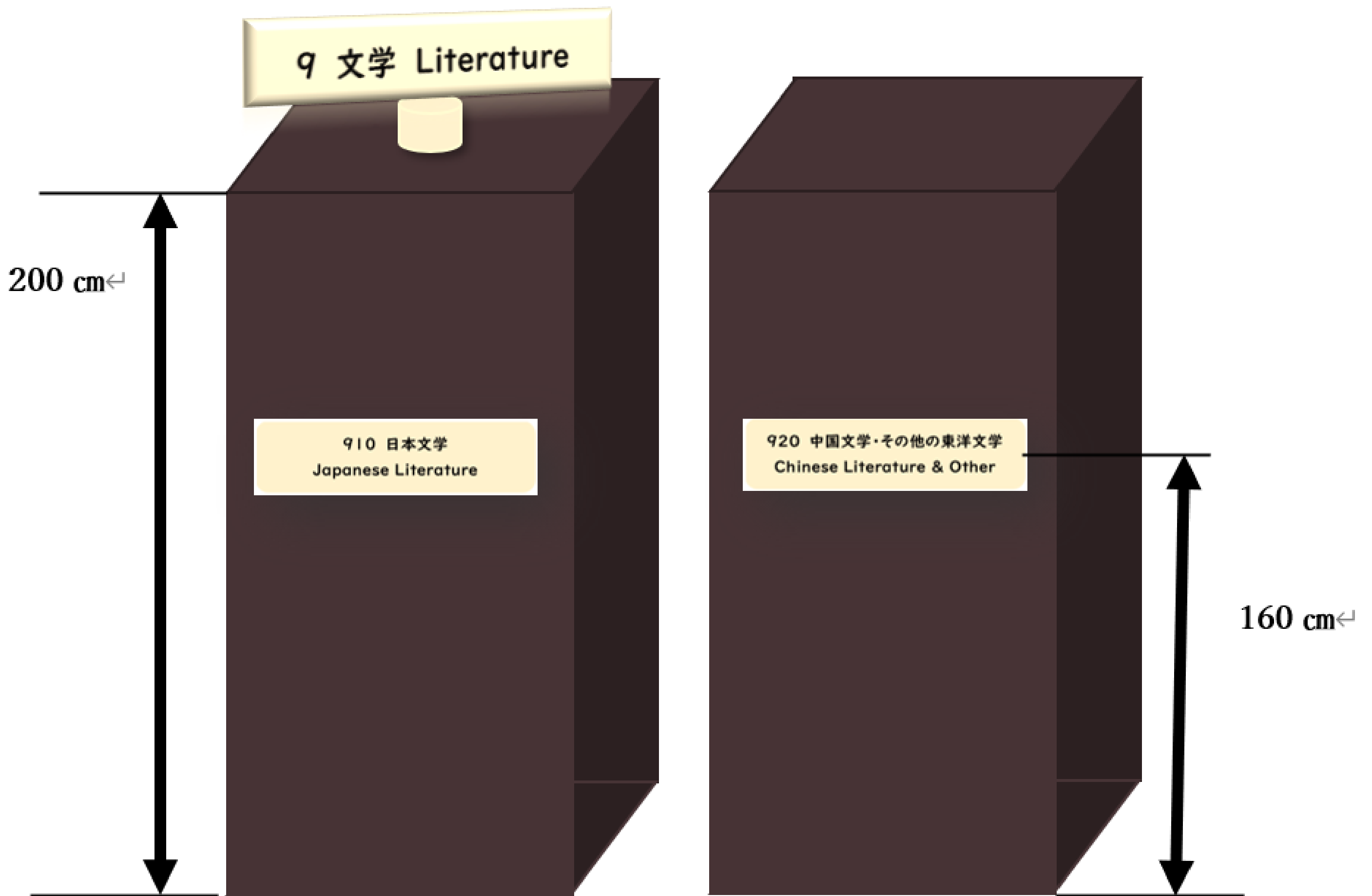
授業で用いる資料を探している大学生。図書館にくることはあまりなく、大学図書館の職員も少ないため、誰に何を聞けばいいかわからない。目的の図書は決まっているため、opacで検索した情報をメモして資料を探すが、分類番号が何かわからず、どこに行けばいいかわからない。

【想定する図書館像】

- 大学図書館。
- 書架サインに書かれた情報が少なく、どの書架にどういった分野の資料があるのか、ひと目でわからない。
- opac検索をし、分類記号をもとに本を探す利用者は、書架サインにある書架の番号と請求記号の数字で混乱したり、著者記号のアルファベットと書架の番号のアルファベットで混乱したり、なかなか資料へ辿り着けていないことが多い。
- 書架サインの位置が目に残りにくい高さであることや、色合いがお知らせなど他の掲示と同じ色なので、利用者が気づかなかったり見過ごしていることも多々ある。

解決案

考案した書架サインのデザインは以下の [図1] である。



[図1]

[図1] 書架サインデザインのポイント

① 書架に番号をつけない

分類番号に慣れていない学生にとって、資料にも書架にも番号がついているのは混乱の原因となるため、書架番号は付けず一番重要である分類番号を表記する。

②日本語と英語で主題を表記する

留学生や日本語を母語としない学生もいることを考慮し、日本語と英語で主題を表記する。

③フォントと色合い

目立つ色合いだが書架と調和が取れている

暗い色合いの書架ならば、書架サインは明度の高い色を採用する。文字は視認性の高いフォントを採用する。（[図2] [図3]参照）



[図2]

9 文学 Literature
910 日本文学 Japanese Literature
920 中国文学・その他の東洋文学 Chinese Literature, Other Oriental lit.
930 英米文学 English & American Literature
940 ドイツ文学 German Literature
950 フランス文学 French Literature
960 スペイン文学 Spanish Literature
970 イタリア文学 Italian Literature
980 ロシア・ソヴィエト文学 Russian & Soviet Literature
990 その他の文学 Other language Literature

[図3]

④ 第一区分主題は大きく

第一区分の主題は遠くからでも見える大きさとで掲示する資料を探すためにまずどの辺りに行けばよいか遠くからでも分かるように、第一区分の主題を書架の上に大きく掲示する。

⑤ 書架サインの位置は下から160cmの高さに

大学生にあたる20代の男性の平均身長は約170cm、女性は約158cmであることから、見やすい書架サインの位置は地面から160cmとした。(国民の健康 栄養調査14、2018)

まとめ・今後に向けて

目的でも述べたが、情報アクセスをスムーズにするための案内とは、案内表示のことだけを指すのではない。

今回想定したのは、目的を持ち、資料を探すためにわざわざ図書館に足を運んでいる、比較的図書館に慣れ親しんだ大学生であった。しかし、図書館の利用方法をそもそも知らない学生、図書館がどこにあるのか知らない学生などといった層もある。隠れた情報ニーズを持っているのに、図書館についての案内が不足しているために、情報にアクセスできていない学生である。

これらの層にまで情報がリーチするようにして、利用を促進するためには、

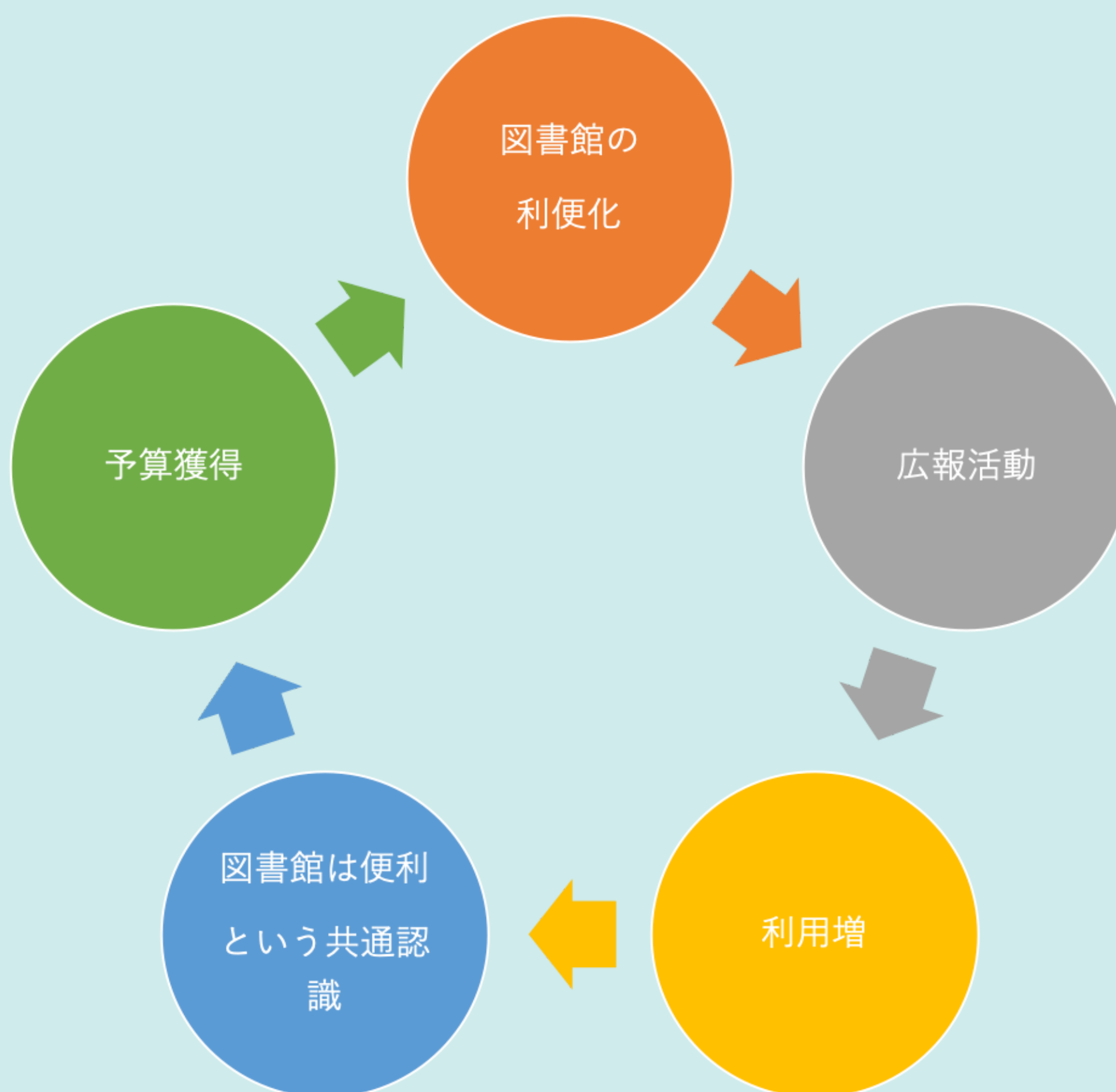
- ①利便性の向上
 - ②広報活動（サービス内容の周知）
- の2つを行なっていくべきだろう。

①について、できることと言えば、利用者が求める資料を取り揃えた蔵書構成やデータベース契約を行うこと、わかりやすい書架の配置、煩雑な手続きの廃止、電子書籍の導入、入るやすい場所に図書館を配置・デザインする等、資料の充実と大学生が便利と感じる環境づくりが挙げられる。ただ、これらを実行するには予算や人員を増やさなければいけないという難点がある。

②について、広報活動で行うべきことは、①で行う図書館内の環境改善では利用意欲が起こらない、図書館にまだたどり着けていない人を図書館外へ飛び出して迎えに行き、引き込むことである。具体的には、SNS図書館外の誘導案内表示、生徒と直接教関わりのある教員との連携・人脈作りまで多岐に渡る。

近年Googleでの検索を指す「ググる」という言葉が一般的になるなど、情報ニーズは自分で解決することがあたりまえになってきているが、検索ボックスでヒットする情報はほんの一部に過ぎない。Googleでの調べ方がわからない領域でこそ、図書館が本領を発揮する。（図書館が本領を発揮するのではないか？というレファレンス例を別コーナーで紹介した。ぜひ見ていただきたい）そのことを周知していくことで、図書館の利用は増えていくだろう。

「ググる」に対抗して「図書館でレファレンスする」という意味の略語が流行り出すくらい、普及させることを最終的な目標に据えるべきなのではないだろうか。内実ともに充実させることが疎かになってはいけませんが、外にむけた発信まで行なってはじめて、利用者にアクセスを可能にさせることなのではないだろうか。



[図4]

①利便性向上、②広報活動 を合わせて行なっていくことで、図書館の好循環が始まる。（図4参照）図書館の未来をより良いものにするために欠かせない、予算の獲得のためには、図書館の便利さを向上させ、あわせてそのことを周知していくことが必要だと考える。今回はまずその取り組みの取り掛かりとして、大学図書館で用いるための書架サインの考案を行った。

私たちは、桃山学院大学の2021年春司書講習受講生の中で集まった、有志の勉強会のメンバーです。
これから図書館ではたらく、みらいの図書館員として、自分たちなりに何ができるか考えていこうと思います。

みらいの司書会

東京外国語大学3年
橋口真帆



関西学院大学3年
金柎あすか

アグレッシブ図書館員
明海智里

おまけ

図書館が本領発揮しそうな レファレンス10選！

踏み込んだこと・信頼性の高いこと、むかしのことを調べたいときに本領を発揮するのではないか。

ググるよりも、レファレンスに聞いた方がいい質問とは？

- ・バーコード頭は、なぜできたか？
- ・正しいダイエット方法とは。
- ・新型コロナウイルスについて、内服薬の開発はどこまで進んでいるか。
- ・印象に残っている一説があるけれど、何の本かわからない！
- ・古代豪族の苗字にはどんなものがあるか。豪族の末裔は国内の何割程度なのか？
- ・珍しい早口言葉をしりたい。
- ・じゃんけんの声かけの違いを知りたい。
- ・運動会の競技、地域での違いを知りたい。
- ・恋と愛の違いとは何か。